

石綿分析依頼票

-記入例-

工期	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
----	---------------------

件名	
----	--

通常試料受取後2週間程度

受取日		依頼元	〇〇〇株式会社
受取者		担当者名	〇〇

TEL	
FAX	

試料採取履歴					
試料番号	報告書宛名	採取年月日	建材名	試料の形状又は材質	
	試料名	採取会社	建物などの採取場所	建物、配管設備、機器などの名称	施工年及び施工などを採用した年
		採取者	建物などの採取部位	建物、配管設備、機器などの用途	必要な報告書部数
(記入不要)	〇〇〇株式会社	平成 年 月 日	吹付け材		
	天井吹付け材(建材名など記載)	□□□株式会社	(住所・建物名等)		年
		〇〇	天井		部
		平成 年 月 日			年
					部
		平成 年 月 日			年
					部
		平成 年 月 日			年
					部

■ はわかる範囲で記入ください。

石綿分析依頼票

工期	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
----	---------------------

件名	
----	--

受取日	
受取者	

依頼元	
担当者名	

TEL	
FAX	

試料採取履歴					
試料番号	報告書宛名	採取年月日	建材名	試料の形状又は材質	
	試料名	採取会社	建物などの採取場所	建物、配管設備、機器などの名称	施工年及び施工などを採用した年
		採取者	建物などの採取部位	建物、配管設備、機器などの用途	必要な報告書部数
(記入不要)		平成 年 月 日			
					年
					部
		平成 年 月 日			
					年
					部
		平成 年 月 日			
					年
					部
		平成 年 月 日			
					年
					部

試料の採取方法

〔安全衛生〕

現場から採取する場合は、現場を乱さないように、また、粉じんの飛散に留意し、呼吸用保護具等を着用して下さい。

(飛散性の高い試料の場合は、霧吹き等で水を吹きかけ、湿らせてから採取する方法も有効です。分析前に乾燥する必要がありますので、その旨を記載して下さい。)

〔採取方法〕

試料の採取は、鋭利なカッターなどを用いて行い、吹付け材、保温材のような軟らかい材料の場合は、1箇所10cm³程度、また、板状で比較的硬い材料の場合は、1箇所100cm²程度を採取してください。

吹付け材の場合、吹付け部位が層になっている場合があります。必ず貫通して試料を採取し、表面だけ採取することは避けて下さい。

〔採取位置〕

a. 通常、試料の大きさは、測定対象の建材を代表できる十分な大きさとし、最低3箇所以上から別々に試料を採取してください。また、製造又は輸入された建材から採取する場合は、ロットを代表する試料を採取して下さい。

b. 吹付け部位が壁・梁・天井のように複数面ある場合は、それぞれから1箇所ずつ採取してください。また、吹付け部位が1面しかない場合は、同一面から適当な間隔で3箇所採取して下さい。

c. 施工年によっては石綿入りの吹付け材と含まない吹付け材が混在している可能性があるので施工階単位で試料を採取して下さい。

d. 施工面積が3,000 m²以上の場合は 600 m²ごとに1検体分の試料を採取して下さい。

(試料採取時における注意事項)

※ 3箇所以上から採取するのが一般的な手法となっていますが、調査対象全体を均一にすることが目的であり、分析前にはそれらを等量混合します。したがって、試験対象が小さい、施工面積が狭いなどの事由で3箇所以上からの採取が困難な場合は、理由を明確にして、2箇所以内で採取して下さい。

有機物を含む試料は、電気炉もしくは低温灰化装置で分析前に灰化します。この場合、有機物が多い試料では通常の試料量では分析に十分な試料が残らないことがあるため、あらかじめ多めに試料を採取するか、事前にご確認下さい。

試料の保管

採取した試料は、混ぜずに、粉じんの飛散に留意して密封容器(ジッパー付きビニール袋でも良い)に個別に入れ、それらの試料を一纏めにして収納して下さい。

密閉容器には、採取年月日、採取建物、採取場所、採取部位を記入して下さい。

試料の採取記録

採取した試料の識別のために必要な項目

- 1) 建材名
- 2) 建物、配管設備、機器などの名称及び用途
- 3) 施工年及び建築物への施工などを採用した年
- 4) 建物などの採取部位及び場所
- 5) 試料の概要
・形状又は材質:板、吹付け、プラスチックなど。
・試料の大きさ:おおよその試料量
- ・採取方法及び採取年月日
- 6) 採取者